

目の前の人にも気づけなかった
本当に必要なものを形にする

佐々木 炎

5月末、法人の決算が発表された。経営者は数字に縛られた言動を職員にぶつけて、気まずい関係になる季節でもある。かくいう私もそれが毎年の慣例行事になりつつある。

確かに数字は事業継続のために大切なことではあるが、組織のミッション(果たすべき役割・使命)なくして事業の継続はおろか

独自性と主体性も生まれない。

冒頭の言葉は戦後、小さな町工場から世界的な企業に発展させた、ある創業者から聞いた言葉である。まだ顕在化していないが、人が求めるであろう“モノ”を形にすることで、成果をあげた企業であった。彼曰く、事業の秘訣(答え)は目の前にいるひとりの人の、心の奥底に眠っている。だから誠

実に向き合い、試行錯誤を繰り返しながら答えを見出す。そのひとりの人の延長が、「わたし・たち」になるのだ、と。

私たち経営者は社会の中で成果を上げたい。成果とは収益ではなく、ある特定の社会目的を実現する「使命」である。一人ひとりの課題を解決したいという志を持ち、一人ひとりの必要を満たすために四苦八苦する。全ての人を同時に満足させることは出来ないが、目の前のひとりから始めることは出来る。もう一度誇り高い「ミッション」を掲げ、誇り高い法人を代表する存在になろうと思う。